

平成30年度 学校評価表

徳島県立つるぎ高等学校

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
	全体レベル	下位組織レベル								
人権教育の充実	① 生徒の自立と自己実現を図る。	1 「人権の日」を実施し、日常生活の中で生徒の人権意識の涵養を図るように努める。	生徒アンケートで「人権の日が有意義であった」を85%以上にする。	達成度は85%であり、生徒の人権意識の涵養に一定の成果があった。	A	A	全ての教育活動の中で人権教育が行われていると感じられる。これからも人権意識高揚に努めてほしい。 また、教職員研修として、大島青松園訪問や美馬フィールドワークの取組は大変有意義であり、地域の方々の思いを受け止めた人権研修であり、生徒にも伝えてほしい。予算面では、厳しいと思うが、充実した研修を続けてほしい。 特別支援学校への教材の提供は、素晴らしい活動であり、これからも継続してほしい。	差別の実態に学ぶ参加型の人権学習を進めるため、次年度も、大島青松園でハンセン病回復者と生徒・教職員・保護者の交流会を進めていく。 また、フィールドワークも継続して実施し、教職員の研修を深めていく。そして、教育活動全てにおいて、人権について考える機会を積極的に取り入れていく。		
			2 「ホームルーム活動(人権)」を実施する際に、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組み、個人人権課題を積極的に取り扱う。	生徒アンケートで「ホームルーム活動(人権)が有意義であった」を90%以上にする。	達成度は91%であり、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組むことができた。				A	
		② 教職員研修の充実を図る。	1 美馬フィールドワークを実施し、地域の方々の思いを受けた人権研修に取り組む。	教職員アンケートで「美馬フィールドワークが有意義であった」を90%以上にする。	達成度は96%であり、地域の方々の思いを一端ではあるが、感じ取ることができた。				A	
				2 人権教育に関する研究授業・研究協議に全職員で取り組む。	教職員アンケートで「研究授業・研究協議が有意義であった」を95%以上にする。				達成度は96%であり、研究授業・研究協議が自分の授業に活かされた。	A
					3 人権教育職員研修会への参加率を高める。				教職員アンケートで「チームティーティングが有意義であった」を50%以上にする	本年度、全体としてのチームティーティングは実施しなかったが、一部ではあるものの実施していたクラスもあった。研修への参加状況は改善が見られた。
		③ 学校・家庭・地域の連携の推進を図る。	1 保護者や地域の方々が参加できる人権教育講演会や研修会を実施する。	人権教育講演会や研修会に保護者や地域の方々から10名以上の参加を得る。	保護者に案内できる機会があったが日程等の整合性がとりにくかった。このことが今後の課題である。				B	
	2 異校種間交流の充実に努める。			特別支援学校にユニバーサルデザインの考え方を取り入れた教具を提供する。	特別支援学校へ音楽教材となる教具を提供した。				A	

		④ 生徒の自主活動の活性化を図る。	1	美馬高校生友の会や「中・高生人権交流事業」に積極的に参加する。	美馬高校生友の会に年間9回以上参加する。「中・高生人権交流事業」西部ブロック実行委員会及び生徒部会に年間6回以上参加する。	美馬高校生友の会, 西部ブロック実行委員会及び生徒部会に定常的に参加があり, ひとり役員にもなり積極的に活動できた。	A		
--	--	-------------------	---	---------------------------------	---------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	---	--	--

<p>学習指導の充実</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、これらを活用し、主体的・対話的で深い学びを実践するための指導方法の工夫・改善を図る。</p>	①	主体的に学習に取り組み、他の人と協働しながら学ぶ態度を育てる。	1 全ての教科で学習目標を明確にし、学習内容の意義を自覚させることで、生徒が主体的に学ぶ意欲と態度を充実させる。	生徒アンケート「主体的に授業に取り組むことができたか」を80%以上にする。 職員アンケート「授業中、ICTの活用やアクティブラーニング等による対話的な授業の実践に努めたか」を80%以上にする。	生徒アンケートでは79%の生徒が主体的に授業に取り組むことができた。職員アンケートでは、87%が実践に努めたと回答した。	B	A	生徒に対して5つの観点からアンケートを進めるなど、きめ細やかな評価がなされている。 また電子黒板の利用が促進され、生徒の授業に対する意欲が高まり興味関心がわく授業が展開できているように感じる。	本校のICT環境(電子黒板、生徒タブレット等)を利活用した教材の作成やデータベース化を推進し、生徒の思考力・判断力・表現力を育て、問題解決能力を身につけていきたい。 また、新学習指導要領の年次侵攻に備えて、新しい教育課程の作成や評価基準の見直しについて準備を進めていきたい。
		2 各教科における調べ学習や読書会等をととして学校図書の計画的な利活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させる。	各クラス年1回以上図書室を利用し、学習活動を行う。 読書会を年1回以上企画する。	達成できている。	A	学習面での達成段階に違いはあるが、個人個人としては真面目に取り組んでいると感じている。職員の電子黒板の利活用の面では工夫と改善が進んでいる。			
	②	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。	1 「基礎学」(朝15分間)の時間を計画的に実施し、基礎学力の定着・向上を図る。	生徒アンケート「基礎学の時間は有意義だった」を85%以上にする。	生徒の86%が有意義だと答えた。	A	基礎学の時間はクラス全員で同じ課題に取り組む貴重な学習時間となっている。学年毎クラス毎に資格取得や就職試験対策に活用され、有効に活用できている。 家庭学習時間調査は、1・2年生が目標を上回る結果を残した。 基礎基本となる資格検定の取得では商業科が目標を達成できなかったが、1年間を通して生徒たちはよく頑張っていた。次年度の活躍を期待したい。 難関国家資格・検定の取得では、目標を達成することができた。大きな成果が挙げられている。 課題研究の自己評価では、学んだ知識や技術を活かして、仲間と協働しながら課題の解決に取り組めたことが高い満足度につながっている。 各科の地域貢献活動では、自動灌水装置製作、池田支援美馬分校への教材提供、建築模型製作、ビジネスアイデアに関する研究、みまから6次産業化プロジェクトなど、各科の特色を活かした取組を行った。地域の方に役立つことができたという実感を得たことが生徒の自己有用感向上につながったと受け止めている。		
			2 テスト前日の家庭学習時間調査を行う。	テスト前の家庭学習時間調査で「平均学習時間を対前年度10%増(1年生は入学当初より10%増)」にする。	1年生入学時62%増1.3h→2.1h 2年生21%増1.9h→2.3h 3年生±0.2.5h→2.5h	A			
	③	知識・技能を活用して、課題の解決を目指し、自分の考えを表現する態度を育む。	1 各種資格の学習をととして、知識技能を身に付けるための学習方法を習得するとともに、自らの職業意識を高め、進路の方向性を見いだす力を養う。	各学科で基礎・基本となる資格検定を設定し、1年次において取得率85%以上にする。	(電)第2種電気工事士 100% 工事担任者DD3種 94% (機)計算技術検定3級 100% (建)計算技術検定3級 100% (商)全商5種目 53% (地)電卓検定3級・ビジネス検定3級 98%	A			
				難関国家資格・検定試験の受験を奨励し、地域社会の発展に貢献できる技術者の育成を目指す。 第三種電気主任技術者試験合格 1名以上 ジュニアマイスターゴールド取得 3名以上 2級土木施工技術者試験合格 1名以上 2級建築施工技術者試験合格 1名以上 全商3種目1級資格取得 5名以上	第三種電気主任技術者試験 合格1名 ジュニアマイスターゴールド取得11名、特別賞受賞1名 2級土木施工技術者試験 合格2名 2級建築施工技術者試験 合格2名 全商3種目1級 資格取得7名	A			
			2 工業と商業が連携して、地域の資源を生かした教育活動に取り組むとともに、その成果を機会を捉えて県内外に発信する。	学習の成果を各科の発表会や課題研究概要集の形で発表し、生徒の自己評価シートによる目標達成度を85%以上にする。	3年生の87%が課題の解決に向け主体的に学習に取り組めたと回答した。	A			
				各科の専門を生かした地域貢献活動に取り組む、生徒の自己評価シートによる目標達成度を85%以上にする。	地域貢献活動に取り組んだ生徒の93%が目標を達成したと回答した。	A			

キャリア教育の充実	生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力や態度を育成する。	自己の特性を理解させ、自らのあり方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。	1	進路に関するHR活動及び、進路相談を計画的に実施する。	生徒・保護者アンケート回答での「進路指導が役に立っている」の評価を85%以上にする。	生徒の93%、保護者の96%が「役に立っている」と回答している。	A	A	進路希望が叶う学校であることが、生徒たちの夢の実現に繋がる。引き続き生徒一人一人の進路実現に向けて、真摯に取り組んでほしい。 応募前見学やオープンスクールへの参加を積極的に奨励し、進路選択のミスマッチがないようにしてほしい。	キャリア教育を1年時より継続的に実施し、自分らしい生き方を実現するための力を育成していく。また、インターンシップを奨励し、職業観・労働観の充実に繋げていく。 企業選択時のミスマッチを可能な限り少なくできるように、進路に関する情報を積極的に発信し、生徒・保護者の進路選択に役立てるように努める。
			2	進路説明会・進路通信をとおして、生徒・保護者に進路情報を提供する。	進路説明会と進路通信を、年3回以上発行する。	進路説明会を開催した。進路通信を、年3回発行した。	A			
		望ましい労働観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に応じた、進路の実現を図る。	1	三者面談や個別指導などとおして、生徒・保護者の希望・適性に合った進路指導を実施する。	「希望・適性に合った進路決定ができた」の生徒アンケート回答を85%以上にする。	生徒の95%が、「自分の進路結果に満足している」と回答している。	A			
			2	SPIなど、学力試験の変化に対応した、模擬試験を実施する。	就職試験(1次)での内定率を80%以上にする。	就職試験(1次)での内定率は97.7%であった。	A			
		進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。	1	企業訪問を実施し、就職求人数を確保する。	訪問企業数を80社以上、求人数を300人以上にする。	訪問企業数は80社以上、求人数は1,400人を超えた。	A			

生徒指導の充実	①	基本的な生活習慣を育成する。	1	服装・頭髪検査に合格しない生徒には保護者と協力し粘り強く指導を行う。	頭髪服装検査を年10回以上行う。	評価指標どおり年10回以上実施した。チェックを受けた者は再検査を徹底し、全員合格した。	A	A	夏頃に台風や大雨の日があったので、通学時のさらなる安全教育の充実を図ってほしい。 本年度も、県内外の教職員の不祥事が何度か取り上げられている。一度信用をなくすと、取り返しのつかないことになる。本校でも、コンプライアンスの充実を図ってほしい。 服装・頭髪には清潔感があり、校内外を問わず挨拶をする等、近隣の方々からの評価は高い。引き続き校内巡視等、学校生活における生徒の観察を十分に実施してほしい。 重大事故は注意しているが、危険を回避できる能力の育成が大切であり、引き続き安全教育の充実を図ってほしい。	通学途中のマナー・モラルの指導は、集会等と併せて指導し、通学経路や危険箇所等での立哨も併せて継続して取り組んでいく。 SNSは正しいルールでスマホを使用することについて、外部から講師を招聘し、講演会を開催することをはじめ、全校集会、学年集会、HR活動等あらゆる機会を捉えて指導していく。 登下校時の交通安全については、無事故・無違反を目標に、あらゆる機会を捉えルール、マナーの遵守を徹底し指導する。また警察とも連携を密にとりながら指導の強化に努めていく。	
			2	遅刻過多の生徒については保護者と綿密な連携を行い指導する。	遅刻者0名の日を年間60日以上にする。	目標日数は達成した。保護者との連携、登下校指導などの効果が見られた。	A				
		②	交通安全意識の高揚と交通安全マナーの向上をめざし、交通安全教育の推進を図る。	1	JR貞光駅から校門までの交通危険箇所での立哨指導を行う。特に下校時の巡視を徹底する。	登校下校の立哨指導を授業日の95%以上行う。	評価指標どおり実施できた。特に駅から通学路、踏切、校門までの登下校指導は徹底できた。				A
				2	通学別集会を各学期毎に行い、マナー・モラル向上を意識し、登下校ができるように指導する。	交通安全行事(通学別集会・交通安全講習他)を年5回以上実施する。	評価指標どおり実施できた。社会人運転の同乗で1件生命に危険を及ぼす重大な交通事故が発生した。				B
	③	良好な対人関係を構築できる社会性を育成し、暴力いじめ等重大な人権侵害を未然に防止する態勢を整える。	1	各課において道徳教育の目標を定め、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。	各課・各学年において、それぞれ具体的な取組を行う。	全校集会或いは学年集会時に徹底した指導ができた。	A				
			2	無記名による調査を実施し、暴力・いじめにつながる行動などを把握し対応する。	暴力・いじめ等に関する無記名調査を年3回実施する。	評価指標どおり実施できた。各学期に実施することができ、職員会議で共通理解を図り、HR担任との連携を密にとり対応できた。	A				
			3	携帯・スマホを適切に使用するため、全校・学年集会において常に注意喚起を促す。有害サイトへのアクセス、誹謗中傷などマナー・モラルに反する書き込みをしないよう指導を徹底する。	携帯・スマホ安全教室(講演)を年2回以上実施する。	評価指標どおり(4月:県警,11月:NIT情報技術推進ネットワーク(株))年2回実施できた。実際に携帯電話を使ってマナー、トラブル対処など学習できた。	A				

主権者教育・消費者教育の充実	政治や選挙制度に対する理解や参加意識を高め、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。	①	政治や選挙制度に対する理解や参加意識を高め、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。	1	主権者教育を推進する上で、教員が留意すべきことについての共通理解を図るための研修を行う。	主権者教育に関する研修を、年2回実施する。	主権者教育に関する研修を、2回以上実施できた。	A	B	主権者教育を進めることで、地域の課題を自ら考え、主体的に解決するような若者の育成に励んでほしい。 悪徳商法による被害から身を守ったり、食の安全・安心、環境問題などについて考え持続可能な社会の構築に取り組む若者の育成に努めてほしい。	教職員に主権者教育の研修を適宜行い、共通理解を図る。 主権者教育に関する授業を計画的に実施し、社会において消費者として主体的に判断し責任を持って行動できる能力を育むことを目標とする 消費者教育に関する授業を計画的に実施し、社会において消費者として主体的に判断し責任を持って行動できる能力を育むことを目標とする。	
			政治の仕組みや知識の習得だけでなく、主権者として自覚し、他者と連携・共同しながら地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身につけさせる。	2	各教科・HRで主権者教育に関する授業を実施し、アンケートにおいて理解度を70%以上にすする。	HRでは、主権者教育を実施できたが、各教科においては、あまり実施できなかった。	B					
			持続可能な生産と消費を重視した活動において、主体的に取り組む態度を育成する教育の充実を図る。	1	自立した消費者をめざし、消費者の権利と責任を理解し、消費者問題に取り組む姿勢を養う。	消費者教育に関する授業を実施し、アンケートにおいて理解度を90%以上にすする。	2年生全クラスを対象に消費者庁作成教材「社会への扉」を活用した授業を行った。	B				
			企業の社会的役割やソーシャルマーケティングを学習し、消費者教育の充実を図る。	2	消費者教育に関する授業を年1回実施する。	消費者教育に関する授業は、2年生を対象に年1回実施した。	A					
特別活動の推進	学校行事、生徒会活動の充実を図り、ボランティア活動等の機会を取り入れることにより、豊かな人間性を育成する。 部活動の充実・活性化により、心身両面における成長を図るとともに、団結力や協調性を育成する。	①	生徒会活動についての積極的広報と生徒会活動への理解と協力を促す。	1	生徒会新聞の発行とホームページの更新を適宜行う。	生徒及び職員の生徒会活動に対する満足度を90%以上にすする。	生徒会新聞の発行とHPの更新も適宜行った。また満足度は、生徒が92%、職員が100%であった。	A	A	新聞紙上で体育関係に加え文化関係の活躍をよく見ており、大変素晴らしいと感じている。常に県内で上位を取り続け、全国大会出場を果たすことは難しいと思うが、引き続き部活動は限られた時間の中で、各部練習方法などを工夫して成果を上げている。 生徒会・部活動の活動も校内はもとより、貞光駅清掃や吉野川河川敷等の環境美化活動を定期的に行うことにより、地域の方から好感を持たれるとともに、生徒の豊かな人間性の育成の一翼を担っている。	礼儀正しい挨拶は、近隣の方々や来校される方々からも、褒めていただいている。引き続き挨拶運動に努めていく。 本年度は、全国大会に出場する部が多く、学校全体が活気づいた。引き続き部活動の活性化に繋がるように努めたい。また、部活動の入部率向上のために、さらに努力していく。 清掃活動は継続して続けていき、周辺地域に貢献していく。来年度以降も実施する。	
			各種委員会を活性化させる。	1	各種委員会が主体となった学校行事を実施する。	生徒及び職員の学校行事に対する満足度を90%以上にすする。	評価指標どおり毎月1回実施した。	A				
			部活動への入部率及び継続率を向上させる。	1	部活動入部までの放課後の時間(見学できる時間)を確保する。	部活動入部率・継続率の向上(入部率90%以上、1年間継続率95%以上)	満足度は生徒が96%、職員が100%であった。	部活導入部率97%、1年間継続率95%であった。				A
			部の活動に奉仕活動を加え、豊かな人間性の育成に努める。	1	各部活動が自主的に奉仕活動を実施する。	5部以上の部活動が奉仕活動を実施する。	JRC部、ラグビー部、サッカー部、ソフトテニス部、バスケットボール部・レスリング部などが奉仕活動を実施した。	A				

教育相談・特別支援教育の推進	学校全体での組織的支援体制及び関連機関との連携による支援体制の充実を図る。	①	一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。	1	特別支援教育に関する職員研修会を実施する。	職員研修会を年2回行う。	研修会は、年1回実施し、特別支援教育について研修を深めた。	B	A	個別の支援計画が必要な生徒はいなかったが、支援を要する生徒が増加する可能性は十分にあるので、引き続き支援教育をお願いしたい。 心肺蘇生法とエピペン実技講習会等、全教職員が緊急事態に備えることができるように、引き続き研修を続けてほしい。	特別支援教育の研修を充実させ、全教職員の理解を深め教育力向上を図っていく。また、様々な支援事業や機関と連携を深め、支援が必要になった時にすばやく対応できる体制を構築していく。 全職員を対象に「心肺蘇生法とエピペン実技講習会」を実施し、緊急事態の時にAEDやエピペンを迅速に使用できるようにする。				
			2	支援が必要な生徒には、個別の支援計画を立て、カウンセラーや専門機関と連携して支援を行う。	支援が必要な生徒に、個別の支援計画を立てる。	今年度、個別の支援計画が必要な生徒はいなかった。教育相談便りを年2回発行し、教育相談の案内を広報した。	A								
		②	教育相談活動の一層の充実を図る。	1	一人一人の生徒への声かけや定期的な個人面談による教育相談を行う。	生徒保健委員会を毎月開催するとともに、保健だよりを毎月発行し、保健に関する啓発活動を行う。	保健委員会は毎月開催、保健だよりは毎月発行した。保健室において、個人面談による教育相談を行った。	A							
				2	生徒一人一人の心身の状況を把握するために「悩み・心配事」の調査を行う。	「悩み・心配事」の調査を年2回実施する。	評価指標どおり年2回実施し、調査結果を教職員に報告し、情報の共有化を図った。	A							
		環境・防災・安全教育の推進	環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。防災教育を推進し、災害発生時の支援活動等の実践力を育成する。	①	環境問題学習の一層の推進と啓発を進める。	1	環境保全活動啓発ポスターの作成・掲示を行うことにより、省エネ・エコ意識を高揚させ、節電・節水に努める。	電気・水道使用量などは昨年度を基準に節制する。	大幅な節約はできなかったが、おおむね出来たと思われる。灯油の使用の適正化に注意が必要である。			B	A	天然資源は限りあることを意識し、持続可能な社会の構築に向けて今後も推進してほしい。 近年日本各地で地震が多発しており、自らの判断で命を守るとともに他者と助け合う力の育成に向け、工夫を凝らした防災教育を今後も継続してほしい。 救急救命法の講習を毎年実施しているが、継続して取り組んでほしい。	エネルギー教育について、どのような切迫した課題があるのかを具体的な機会を設定しながら取り組む必要がある。 清掃活動については、地域清掃の取組をさらに充実させたい。 防災教育については、マンネリ化しており、工夫を凝らし新たな訓練等考えなければならぬ状況であり質の向上に努める。
					②	校内・校外清掃の活性化を図る。	1	全職員による毎日の清掃指導を実施し、教室の清掃を徹底的に行い、清潔な学習環境を作る。	職員及び生徒の実施できている自己評価を95%以上にする。			達成できた。	A		
2	生徒が利用している校外の施設等清掃活動を行い、地域の環境美化に努める。			年1回以上、貞光駅や吉野川周辺の清掃活動を行う。			実施できた。質の向上にも努めたい。	A							
③	防災・安全教育を推進する。			1	防災訓練を実施する。	火災を想定した防災訓練と地震を想定した防災訓練を行う。	実施できた。質の向上にも努めたい。	A							
				2	AED講習会を実施する。	職員アンケート「AEDを使用できる」を95%以上にする。	達成できた。	A							

開かれた学校づくりの推進	保護者や地域社会との連携を密にし、学校教育活動全体にわたって地域の教育力を生かすとともに、ホームページ等を活用し積極的に情報発信を行う。	①	情報発信を積極的に行う。	1	ホームページを利用して、各種行事など生徒の活動状況を発信する。	ホームページを更新し、最新情報を提供する。(更新回数70回以上)	ホームページは50回以上の更新を行った。(3月6日現在)	B	A	新聞等のメディアに70回以上も取り上げられ、つるぎ高校の活躍を見るのが楽しみである。今後も積極的に情報発信に努め、地域に密着した学校であってほしい。 PTA活動では、体育祭でのバザー等で活気が感じられるが、PTA総会の参加率が低迷しているため、総会への参加を促してもらいたい。	PTA活動では、総会や役員会での出席率・参加率向上のため機会を捉えて啓発を行う。生徒募集の面では、特色選抜や高専併願者に向けてのPR活動を充実させていきたい。
			2	マスメディア等を通じて、学校情報を積極的に発信する。	徳島新聞、四国放送、NHK等に資料提供を積極的に行う。	徳島新聞等に70回、テレビ等に1回、ラジオに2回、取り上げられ、本校生徒の活躍が紹介された。	A				
	②	PTA活動の活性化を図る。	1	PTA総会・役員会の活性化を図り、参加率を向上させる。	役員会40%以上、総会30%以上の参加を得る。	役員会は36.1%、総会は21.4%の参加であった。	B				
			2	体育祭等の行事で、PTA家庭教育研修部による模擬店や展示を実施する。	体育祭等の行事においてPTA家庭教育研修部役員の参加率50%以上を得る。	PTA役員の参加率は80%超であり、PTA役員以外の保護者も多数参加していただいた。	A				
	③	中学校との連携を図る。	1	中学生体験学習の充実を図る。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90%以上にする。	参加中学生の98%が満足したと答えた。参加者のうち、今の時点で本校へ進学したいと答えた者は52%であったため、本校を知る良い機会となった。	A				
			2	中学校への進学説明会を充実する。	一般選抜の願書受付時点で、前年度以上の出願者数にする。	11月の時点で定員に対し+30人の進学希望があったが、出願時には、電気科で+1、建設科で-3となった。昨年は全体として+3であった。	B				
			3	オープンスクールの充実を図る。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90%以上にする。	中学生は18名の参加があり、満足度は100%であった。	A				



地域と連携した専門教育の充実	6次産業化に向けた取組等により、地域貢献につながる実践力を育成する。	①	行政機関との連携強化を図る。	1	つるぎ町及び美馬市と連携した地域貢献活動を推進する。	つるぎ町や美馬市のイベントに参加し、地域のPR活動を行う。	うだつの町並みで美馬和傘のプロジェクトマップングを行った。また、道の駅「貞光ゆうゆう館」と「みまの里」で、ランプシェードとLEDの展示や世界農業遺産のVR体験などを行った。	A	A	本年度も新聞等のマスコミに取り上げられており、特にドローンを使い「にし阿波傾斜地農耕システム」の広報に取り組むなど新しい試みも見られ、今後も地域の特色を活かした取組に期待する。また海外でのマーケティング販売活動にも取り組んでおりグローバルな人材の育成を担える活動である。	「6次産業化プロデュース事業」が2年目を迎え、「うだつタリスマン」が商品化され、各種イベントで販売を行っているが、来年度はさらに販売実習の機会を増やすなど、活動を継続していきたい。また、アロマキャンドルの商品化に向けても取り組んでいきたい。スーパーオンリーワンハイスクール事業では、継続して行ってきた美馬地域の特産品のPRに加え、にし阿波地域の観光PRなど、ICT技術を活用し、新しい方法を考え、地域の魅力を発信していく。
		②	企業との連携強化を図る。	1	企業と連携した地域貢献活動を推進する。	美馬交流館と協力し、「みまから」の生産や販売に関する新しいアイデアを提案する。	美馬交流館と連携し、ヤフーショッピングで「みまから」関連商品のインターネットショップを開設・販売した。	A	「みまからトウガラシの6次産業化」や「ランプシェード制作」の活動、各種のイベントにおいて特産品の販売実習を行う等、関連した行政機関や地域、企業との連携を行い、地域のPR活動をグローバルに展開し、地域に貢献することができた。		
				2	販売実習・インターンシップ等を積極的に行い、職業・勤労意識を高める。	販売実習・インターンシップ参加生徒の満足度を85%以上にする。	販売実習12名・海外マーケティング販売実習4名・インターンシップ20社66名が積極的に参加した。参加者の満足度は100%である。	A			
		③	地域との連携強化を図る。	1	商品開発・伝統工芸の継承や観光振興を地域と連携し活動を推進する。	「みまから」を使った商品開発、和紙を使ったランプシェード作りや藍染体験を行う。	「みまから」を活用した弁当を開発・販売した。また、夏休みにランプシェードの制作や藍染体験も行った。	A			
工業・商業教育	各種競技会等へ積極的に参加し、国家資格、検定試験等に全力を挙げて取り組む。  スーパーオンリーワンハイスクール事業等の成果を生かし、グローバル化に対応したつるぎ高校ならではの教育を推進する。	①	3年間をとおして職業資格・検定の取得を行うと共に、各種競技会へ参加する。	1	3年間の資格・検定取得指導体制を取り、全校生徒が複数の資格・検定を取得する。	工業学会優秀生徒表彰(資格)を75%以上にする。 全国商業高等学校協会主催の検定3種目以上1級取得者を10%以上にする。 他科の資格・検定取得者数を10名以上にする。	工業学会優秀生徒表彰は128名中106名で82.8%となった。 全国商業高等学校協会主催検定3種目以上1級合格者は15.2%であった。他科の資格・検定取得者は5名であった。	A	A	昨年度に引き続き、競技用ロボット・マイコンカーラリー・ものづくりコンテスト大会等で好成績を残し、珠算・電卓競技会・簿記コンクール・情報処理競技会でも全国大会出場を果たしており工業科商業科ともに成果を上げており素晴らしい。県西部地域における専門教育の中核となる目標に向かって、一生懸命に取り組んでいる様子がよくわかる。今後も引き続き、特色ある学校づくりを目指してほしい。	全校体制で国家資格など、各種資格・検定試験に全力を挙げて取り組むことを目標に、次年度も努力していく。 数々の大会に出場し、結果を残せた年となった。来年度はさらに専門教育の充実に努めるとともに探究心を深め、全国大会での上位進出を目指し努力していく。
				2	競技用ロボット・マイコンカーラリー・ものづくりコンテスト大会・珠算電卓競技大会・簿記コンクール等に出場し、全国大会に出場する。	工業科・商業科とも全国大会へ、1種目以上出場する。	ジャパンマイコンカーラリー2019全国大会、全国高校生ロボット競技大会に連続出場をしている。また、珠算・電卓競技大会、簿記コンクール、情報処理競技会に出場を果たした。	A	工業科商業科ともに資格・検定の取得に意欲的に取り組んでいる。また、専門分野における技術等の向上が図られ、各種競技会やコンテストにおいて全国大会に出場するなど成果を上げた。 工業科と商業科が協力してみまから栽培システムの改良に取り組む、新たなシステムを開発した。		
		②	工業科・商業科に渡る知識と技術を生かし、共同しながら特色ある教育を展開する。	1	地域の特産品の「みまから」等を教材とした実践的学習を確立する。	「フルセットみまから唐辛子栽培システム」を開発する。	学校プール横の空きスペースで、コンテナを活用したみまから唐辛子の栽培を行った。また、散水に関する新たな自動タイマーを機械科と協力し設置した。	A			